

食 品 安 全

2021
vol. 58

食品安全委員会について

P2

食品健康影響評価について

P4

食品健康影響評価の指針等について

P8

ファクトシート

P10

主な出来事について

P11

01 食品安全委員会について

食品安全委員会は、食品の安全性を確保するため、国民の健康の保護が最も重要であるという基本認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から機能的に分離して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行う機関です。食品安全委員会は7名の委員から構成されています。

食品安全委員会

委員長及び委員の紹介



やまもと しげき

委員長 | 山本 茂貴

専門分野 微生物学

略歴 東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員、2021年7月より食品安全委員会委員長。



あさの さとし

委員 | 浅野 哲

専門分野

毒性学

略歴 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期(修士)課程修了後、帝人株式会社医薬開発研究所グループ統括、グラクソ・スミスクライン株式会社筑波研究所マネージャー、国際医療福祉大学薬学部教授を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



かさい

委員 | 香西 みどり

専門分野

消費者意識・消費行動(調理科学)

略歴 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了後、お茶の水女子大学博士(学術)、お茶の水女子大学基幹研究院教授を経て、同大学名誉教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。



かわにし とおる

委員 | 川西 徹

専門分野

化学物質(代謝・動態)

略歴 東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了後、国立衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)入所、薬理部、病理部、生物薬品部、薬品部、副所長、所長を経て、2018年7月より食品安全委員会委員。



まつなが わき

委員 | 松永 和紀

専門分野

リスクコミュニケーション

略歴 京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、株式会社毎日新聞社記者を経て、科学ジャーナリストとして活動。2021年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。



わき まさこ

委員 | 脇 昌子

専門分野

公衆衛生学

略歴 徳島大学医学部医学科卒業後、国立循環器病センター臨床栄養科医長、京都大学医学部臨床教授、地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事兼病院長補佐及び同内分泌・代謝内科主任科長を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



よしだ みつる

委員 | 吉田 充

専門分野

食品の生産・流通(生物有機化学)

略歴 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、東京大学農学博士、(独)農研機構食品総合研究所食品分析研究領域長を経て、日本獣医生命科学大学応用生命科学部教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

2020年度活動の概要

TOPICS 01

■食品健康影響評価

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、委員会を32回、専門調査会等を111回(うち105回はウェブ会議)開催の上、調査審議を実施しました。添加物、農薬、動物用医薬品を始めとする90件について、厚生労働省、農林水産省及び消費者庁から評価要請があり、前年度までに要請があったものを含めて、2020年度は98件について評価結果を通知しました。また、食品健康影響評価の案件ごとの整合性を確保し、透明かつ円滑な調査審議の実施のため、評価指針の改訂を2件、手引きの取りまとめを1件行いました。加えて、農薬専門調査会を5つの専門調査会に組み替え、農薬の評価体制を整備しました。

TOPICS 02

■リスクコミュニケーション

新型コロナウイルス感染症への対応として、2020年4月、ウェブサイトに「新型コロナウイルス感染症と食品について」というページを新設しました。WHOなどの公的機関が発表している科学的根拠に基づく正確な情報を集約し、食品やその包装を介して新型コロナウイルスに感染したという科学的情報はないことや、手洗いなどの感染予防策を紹介しました。

また、2020年秋ごろから国内各地で高病原性鳥インフルエンザの発生が相次いで確認され(2021年3月末日現

在国内で52例確認)、発生の都度、ウェブサイトや公式Facebook、メールマガジンにおいて、「現状では、我が国で家きんの肉や卵を食べることにより、人が鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はない」と考えていることを情報発信しました。

TOPICS 03

■研究・調査事業

研究・調査について、22課題を実施し、2021年度に実施する5課題を食品安全委員会で決定しました。また、研究成果の普及及び活用の促進を目的に、2019年度に終了した研究課題(9課題)の成果報告書を公開するとともに、2つの課題を対象として、成果発表会を開催しました。

TOPICS 04

■国際協調

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた専門家会合等については、多くが来年以降に延期となりました。一部についてはウェブ会議システムを利用することにより開催されたので、FAO/WHO合同食品添加物専門家会議、経済開発協力機構(OECD)農薬作業部会等に参加して国際的な議論に貢献しました。また、英文電子ジャーナル“Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan”に、新たに13本の論文を掲載しました。

2020年度に終了した食品健康影響評価の件数

●添加物	8件	●微生物・ウイルス	2件	●肥料・飼料等	16件
●農薬	39件	●プリオン	4件	●薬剤耐性菌	2件
●動物用医薬品	15件	●遺伝子組換え食品等	10件	合計98件	
●器具・容器包装	1件	●新開発食品	1件		

(2020年度末までの累計 **2,955**件)